木と建築で創造する共生社会実践研究会　　令和元年６月 15 日

A-WASS 通信 13 号

http://a-wass.org/

会長　長澤　悟　　編集　A-WASS 事務局

「A-WASS 地域に根差した木の建築研修会」（第６回）
― 坂田 雅孝 氏（(株)ウッディファーム）、安田 哲也 氏（NPO 法人サウンドウッズ）講演会 ―　報告

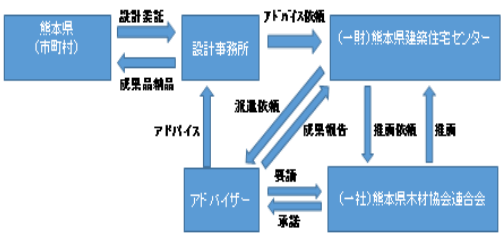
平成31年4月27日（土）、ＴＫＰスター貸会議室 茅場町において、標記の研修会を開催しました。今回の研修会では、木造アドバイザー業務の取り組みについて、(株)ウッディファームの坂田雅孝氏より「公共建築での木材利用と地域産材の利用」の事例を講演いただき、NPO法人サウンドウッズの安田哲也氏より「木造建築のプロデュース」と題して講演いただきました。当研究会会員など28名（講師を除く）が参加しました。以下、その概要を報告します。

なお、本研修会は、公益社団法人国土緑化推進機構の平成30年度「緑と水の森林ファンド」助成金の支援を受けるとともに、日本建築士会連合会ＣＰＤプログラムに登録されました。

○ 坂田氏からは、熊本県の「木造設計アドバイザー派遣事業」で県内自治体による公共施設の木造建築の発注に際して行う、地産地消を念頭に木材流通などの実態を踏まえた「県産材利用での樹種選定」「素材・製材・乾燥工程の確認」「JAS 材の選別」などのアドバイスの内容や進め方について紹介された。

○ 具体的には、規模に応じた工期の制約・木材の調達・部材調達やコスト面、デザインと木材の製造しやすい規格と調整方法など、ウッディファームで行っている木造設計コンサルティングの内容と、これを通じた木造建築物の普及の取組について紹介された。

木造設計アドバイザー
平成24年度に創設



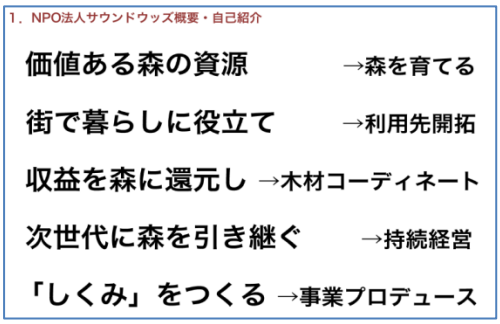
アドバイサー派遣
- 基本設計時に3回、実施設計段階で1回、合計4回を基本
- 中大規模木造建築の課題
- 県産材利用にあたっての樹種選定方法
- 木材の情報の提供（素材の状況、木材の流通材の情報等）
- 木材の基礎知識（物性、乾燥工程に係る体制の確認）
- 木材の調達
- JAS規格又はJAS規格に準ずる材料の使用を決定（JAS認定工場）
- そのほか、設計の進捗にあわせて物件に適した助言

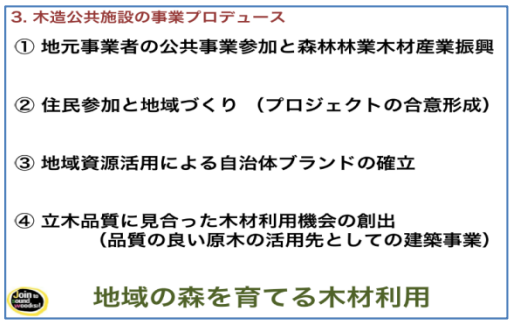
○ 熊本県の「木造設計アドバイザー派遣事業」の特色として、設計事務所に限らず、発注者側の営繕担当職員や林業振興担当職員にも研修・アドバイスを受けてもらうということがあり、職員にとっても木材に関する幅広い知識を得ることができ、関係者の理解促進に役立っているとのことであった。また、地域材利用現場の見学会では、あえて問題が顕在化している事例を見せることで、実践的なノウハウを伝えるように工夫しているとのことであった。

○ 安田氏からは、地域産材を利用した木造木質化の企画予算化のサポート（補助金制度の情報提供、ワークショップ、調達・製造の紹介、森林資源の把握等）や地域産木材調達のサポート（森林調査、建築企画、木材調達等）など、建築計画の企画時や発注時に必要となるサポートの内容について具体例が紹介された。

○ サウンドウッズでは、地域の森林が健全な状態で次世代に引き継ぐことが重要との考えから、森林所有者が意欲を持って林業経営に向かえるように支援することを心がけているとのことであった。そうした観点から、木材利用の歩留りを上げる設計（反面、設計の自由度は下がるが）を促したり、住民参加による合意形成や施設整備成果活用のサポート（市民への普及・啓発、地域材利用の促進、事業成果の情報発信）を行っていることも紹介され、森林所有者や地域住民の啓発を含めた地域の木材利用の促進を図るためのポイントが紹介された。

○ 他方、こうした木材コーディネート・アドバイス活動の意義がきちんと理解・評価され（報酬面を含む）、仕組みとして持続的に回っていくかが課題であり、そのためにも、都市部住民を含めて地域材を利用することの意義について理解の醸成を図る必要があるとのコメントもあった。





○ 研修会終了後の懇親会においても、両氏の取組について質疑応答が続き、地域産材を利用していくための手法について紹介と活発な意見交換が行われた。

文責：A-WASS 賛助会員　日本設計　小泉

～皆様のご意見を歓迎いたします～
A-WASS 事務局（森の贈り物研究会内）
〒103-0004　東京都中央区東日本橋 3-8-1　　東日本橋コーポラス１F
TEL：03-3249-0421　FAX：03-3249-5133
E-mail：general@a-wass.org